

Google Map APIを利用したおたるウォーキングマップ・アプリの開発に向けて

プロジェクト代表者：佐山 公一

1. プロジェクトの目的・概要

プロジェクトの最終的な目標は、現在ウェブ上に構築してきている『おたるくらしマップ』（<http://otaru-class.com/map/>）を実際に多くの人に使ってもらい、小樽を訪れてもらえるようにすることであり、本プロジェクトではその予備調査を行う。『おたるくらしマップ』は、今のところその使いやすさからGoogle Map APIを使っている。小樽のGoogle Mapとその上の場所に置かれたアイコン（観光目的を示すカテゴリーごとにある）からなっており、アイコンをクリックすると、その場所の観光情報が、誰かの経験としてストーリー展開され、小樽を疑似的に追体験できるようになっている。

小樽に行ったときの状況を、自宅（居住地）や小樽にいながらよりリアルに疑似体験できるようにする。これを実現するためには、提供するコンテンツを（すでにある『おたるくらし』の記事の中から）どう選ぶかといった内容の問題、それをどのようなソフトウェアの形にして提供するかといった技術の問題、これら二つの問題に切り分けて考える必要がある。

2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

2016年9月6日に、内容と技術の両面に詳しい中山仁史氏、内容に詳しい小樽観光協会の永岡朋子氏と、さらに同年9月23日に、中山氏、最新技術に詳しいアートフル船戸大輔氏と話し合った。その結果、自宅にいるときと小樽訪問時とは、使用状況が異なり、分けて考える必要があるのではないかとの結論に達した。

自宅にいてスマホ、タブレット、PCを使って小樽の情報を調べるときには、テキスト情報をじっくり読む状況を想定すればよい。 この場合には、『おたるくらしマップ』を見やすくするようにすればよい。これまで通り、Google Map APIを使う。

しかし、**小樽に来てスマホを使って調べるときには、じっくりテキストを見ることはしない。手軽にかつ感覚的に情報を提供する必要がある。** その方法として、動画や静止画の形で見せるのがよい。これを**低予算**で技術的に達成するには、スマホのアプリにはせず、現状の**Webアプリ**のまま使用感を改善することを考える方がよい。

動画を中心に使う場合には、**ユーチューブに動画をアップしておいて『おたるくらしマップ』から自動的に移動させる**ようにする。動画を新しく作る場合にはドローンも活用する。

静止画を中心に使う場合には、**インスタグラムと『おたるくらしマップ』を連動させる**。インスタグラムはフェイスブック（『おたるくらし』フェイスブックがある）と連携できるので、**フェイスブックのAPIを使うのがよい。**

3. 今後の取組予定について

今後は、2017年の1月末（小樽や札幌の冬祭りの直前）に、『おたるくらし』フェイスブック上で、**アンケート調査**を行うことにしている。『おたるくらしマップ』を実際に使ってもらって、その**使用感**を尋ねる。このアンケート調査は、これまでと違って、読者に負担を若干かけることになるので、いづらかインセンティブを参加予定の読者に与えるようにする。

アンケート調査では、まず、2回の話し合いの中で結論された『おたるくらしマップ』の自宅、小樽訪問時の使用状況が、想定通りであったかどうかを確認する。さらに、想定外の状況、たとえば、見込み客の住んでいる居住地による違い、**見込み客の属性**（年齢層、性別、など）による違いがあるかどうか、などを調べる予定にしている。

これまで述べてこなかったが、当初の申請では、観光情報を音声化する予定でもあったので、小樽商大の学生に日本語で、留学生に中国語でいくつかサンプルを作って、アイコンに埋め込んでみることも予定している。